

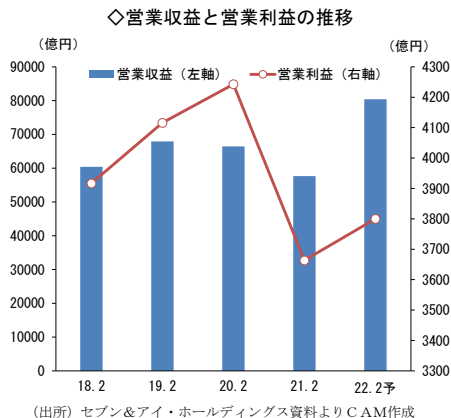
企業ニュース セブン&アイ・ホールディングス

(東証1部: 3382) <https://www.7andi.com/>

作成者: 高見澤晶子

中長期での海外コンビニ事業成長加速に期待

セブン-イレブン、イトーヨーカ堂などを傘下に持つ総合小売企業。21.2期の営業収益構成比は、国内コンビニエンスストア16%、海外コンビニエンスストア38%、スーパーストア31%、百貨店7%、金融関連3%、専門店5%。2021年5月に米国コンビニ大手のスピードウェイの買収を完了、これを受けて2021年度通期計画と2021~2025年度中期経営計画を発表した。中期経営計画では海外コンビニの成長加速と国内コンビニの再成長に投資を集中する方針を示した。特に海外コンビニは食品の取り扱い強化、デリバリーやデジタル化などのサービス拡充で需要獲得を図る。国内コンビニ市場が飽和状態で新規出店が難しくなる中、海外の収益貢献が中長期の成長ドライバーとなろう。



第1四半期は国内外のコンビニ事業が回復基調

22.2期・第1四半期（3-5月）の連結業績は、営業収益が1兆5,554億円、前年同期比12%増、営業利益が775億円、同9%増。国内コンビニは同6%増収、同17%営業増益。オフィス周辺店舗の売り上げが回復、ニューノーマルに合わせた店舗レイアウトも奏功した。海外コンビニは同13%増収、同8%営業増益。経済再開に伴い人々の外出機会が増え、物販、ガソリン販売ともに急回復した。なお、スピードウェイは5月14日付の買収完了であるため、本格的な連結効果は第2四半期からとなる。スーパーストアや百貨店は苦戦したが、国内外コンビニの順調な回復でカバーした。

22.2期の通期会社計画は、営業収益が8兆380億円、前期比39%増、営業利益が3,800億円、同4%増。コロナ禍による事業環境の不透明感、スピードウェイが統合初年度であることなどを織り込んでいる。また、第2四半期以降は投資の本格化、各事業での先行経費を織り込んで営業利益は小幅な増益にとどまるとしているが、やや余裕を持った計画となっている印象。新型コロナの感染状況には注意が必要だが、国内外コンビニの販売が第1四半期に引き続き回復基調を維持すれば、計画上振れの可能性が高まろう。

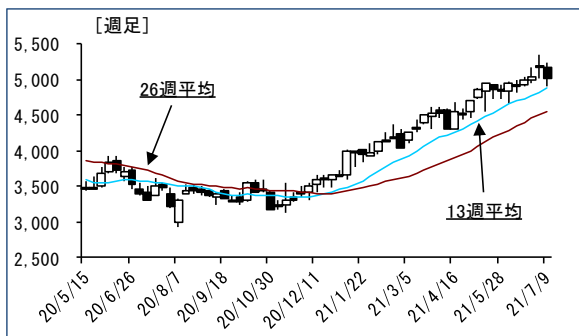
[株価動向・投資判断]

海外コンビニを軸とした中長期の成長戦略に期待したい。

<3382 セブン&アイ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期利益 | 1株利益 | 1株配当 |
|--------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-------|--------|
| | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 円 | 円 |
| 20.2 | 6,644,359 (▲2) | 424,266 (▲3) | 417,872 (▲3) | 218,185 (▲7) | 247.0 | 98.50 |
| 21.2 | 5,766,718 (▲13) | 366,329 (▲14) | 357,364 (▲14) | 179,262 (▲18) | 203.0 | 98.50 |
| 22.2 予 | 8,038,000 (▲39) | 380,000 (▲4) | 343,500 (▲4) | 190,000 (▲6) | 215.2 | 100.00 |



| [主要株価指標] (売買単位: 100株) | |
|-----------------------|-------------------|
| 株価 (2021/7/9) | 5,018 円 |
| 年初来高値 (高値日) | 5,340 円 (21/6/30) |
| 同 安値 (安値日) | 3,588 円 (21/1/4) |
| 予想 P E R (22.2 予) | 23.3 倍 |
| 1株株主資本 (PBR算出用) | 3,153.8 円 |
| P B R | 1.59 倍 |
| 予想配当利回り | 1.99 % |
| (1株当たり配当金年100.00円) | |
| R O E (21.2) | 6.8 % |
| 発行済み株式数 | 88,644 万株 |